

その後の私と間葉系幹細胞とボクシング

奥野真起子



私は2重東2ルート ACL 再建術の先駆者である東京医科歯科大学運動器外科 宗田教授と文部科学省による平成23年度「再生医療の実現化プロジェクト 再生医療の実現化ハイウェイ」の「短期で臨床研究への到達を目指す再生医療研究」に見事採択され、益々繁栄の一途をたどる軟骨再生学の関矢教授のもとで研究させていただきました。

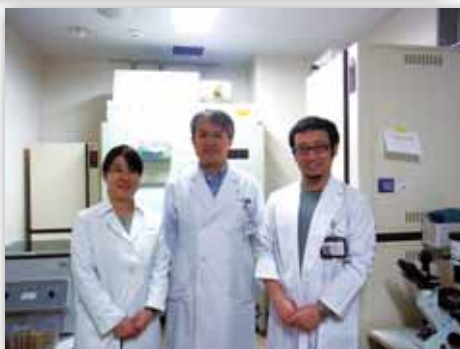
この2年の間に発行された同門会誌で研究報告をさせていただきましたが、結局全く違う内容のものが最終的なテーマとなりました。現在、私に取り組んでいるのは

「ラットの半月板切除モデルにおける滑膜間葉細胞の自家移植、同種移植の違い」というものです。

F344, Lewis, ACI の3種類のラットを用い、それぞれの滑膜から間葉系幹細胞を培養し、それらを半月板を部分切除したF344 ラットの膝に移植をし、再生半月板を観察するというものです。近郊系であるF344 から F344 への移植は自家移植であり、Lewis から F344 は minor mismatched, ACI から F344 は major mismatched の同種移植となります。結果は major mismatched で半月板の再生が不

良であり、組織的にもよくありませんでした。このことより、間葉系幹細胞の同種移植より自家移植が良いということが言え、今後間葉系幹細胞の移植による治療の際に参考になるのではないかと考えています。現在は、残っている研究のために、時々東京へ行ったり来たりさせていただいていま

す。夏過ぎまでには形にしたいと思っています。また宗田教授、関矢教授を始めとする教室の皆さんにも仲良くしていただき、本当にありがたく思っています。私が帰るときにはオリジナルの DVD まで作っていただきました。DVD は大切に医局の机に飾っています。



さて、東京に行っていた2年間、ずっと研究に没頭していたと言いたいところですが、昨年の同門会誌で告白したようにボクシングを始めました。ジムは大学のある御茶ノ水から1駅の神田にあり、女性のトレーナー（キックボクシングの元世界チャンピオン）や女性の会員さんもいてとても行きやすい環境でした。ボクシングというものは、やりだすとハマるようで、一時的にですが綺麗な床を見ると腕立て伏せをやりたくなり、イライラすると殴りたくなる

衝動にかられ、鏡をみるとシャドーをしたくなるという症状に苛まれました。今ではすっかりそんなこともなくなりましたが、一人きりのエレベータ内でシャドーをしている姿を見かけても、見て見ぬふりをしていただけるとありがたいです。

そんなこんなで2年間の東京生活に別れを告げたいと言いたいところですが、未だに通っている状況なのが悲しいところです。是非とも早く仕上げたいと思っています。

